

町東日本大震災犠牲者追悼式 震災から 10 年 哀悼の意を捧げる

町東日本大震災犠牲者追悼式は 3 月 11 日、役場庁舎エントランスホールで行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため、参列を制限して行われた追悼式には関係者ら 25 人が出席。地震発生時刻の午後 2 時 46 分にはサイレンの吹鳴とともに、震災犠牲者への心からの哀悼の意を込めて黙とうを捧げました。

高橋由一町長は式辞で「今後も被災地の復興の一助になるよう沿岸被災地や当町に避難している方々に寄り添い、記憶を風化させずに、防災知識の啓発や危機管理を高めたまちづくりに努めてまいりたい」と述べました。

また、参列していた川崎さんは「震災当時は釜石に住んでいたが、娘が住んでいた金ケ崎に避難し、町民となった。ヘド口のような海の水がアパートの 3 階まで上がってきたのを覚えている。今は金ケ崎の皆さんに良くしてもらい、感謝と幸せでいっぱい。拾った命に感謝し、長生きしていきたい」と話していました。



献花を捧げる高橋町長

皆白行山流三ヶ尻鹿踊 郷土芸能の伝承へ 演舞などを映像で記録

町の次世代育成事業の金ケ崎ミライラボ「郷土芸能の伝承と継承を知る～皆白行山流三ヶ尻鹿踊～」が 2 月 21 日、中央生涯教育センターで行われました。

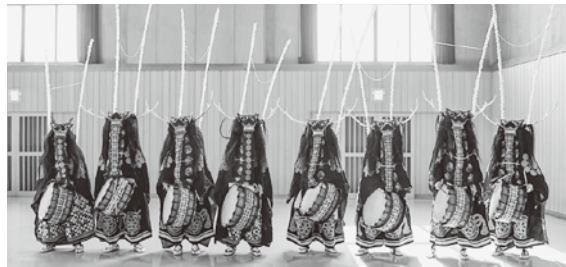
町内外の同流派である行山流鹿踊り団体が集まり、演舞や学習会（意見交換会）のようすを映像に記録し、今後の郷土芸能の伝承や継承について考えました。

金ケ崎町からは、皆白行山流三ヶ尻鹿踊（羽階勝昭庭元）が参加。演舞「女鹿かくし」を披露し、約 40 分にもわたる本来の演舞の姿を映像に記録しました。

羽階庭元は「ことしは新型コロナウイルス感染症の影響で発表する機会がなかったが、みんなでこの日のために練習を積み重ねた。今回の交流を通じて、後継者問題の解決の糸口になれば」と話していました。



演舞「女鹿かくし」を映像に記録するようす



約 40 分の「女鹿かくし」を踊り終えた三ヶ尻鹿踊の皆さん

タブレット端末の使用方法を学ぶ町議会議員の皆さん



町議会 タブレット導入に向けて研修

町議会は 2 月 15 日、役場庁舎議場で議員向けのタブレット学習会を開催しました。3 月定例会から試験的にタブレット端末を用いて議事を進めるにあたり、タブレットの使用方法等について理解を深めました。

白糸まちなみ交流館に飾られたひな人形



要害ひな祭り 来場者を楽しませる

金ケ崎要害ひな祭りが、3 月 3 日まで町内各施設で開催されました。古くは明治から大正時代までさかのぼるひな人形や、お雛様が立っている状態の珍しいひな人形も飾られ、来場者を楽しませました。

森山総合公園利用者 260 万人達成 利用者とともに記念の日を祝う

森山総合公園は 2 月 17 日、平成 5 年の開所から通算の延べ利用者数 260 万人を達成しました。260 万人目となった高橋敏男さん（北上市江釣子）は「ほとんど冬のあいだは、ウォーキングに利用している。260 万人目となり、ただただびっくりしている。これからも生きているかぎりには利用していきたい」と笑顔で話していました。



町生涯スポーツ事業団黒澤副理事長とくす玉を開ける高橋さん（右）

町生ごみ堆肥化活用普及研究会 町内の教育施設等に EM せっけんを寄贈

町生ごみ堆肥化活用普及研究会は 2 月 18 日、廃油を活用してできた EM せっけん 170 個を教育施設等に寄贈しました。同研究会佐々木恒雄会長は「EM せっけんをきっかけに、子どもたちに環境問題に興味を持ってもらいたい。手洗いや掃除に活用してほしい」と話していました。同研究会は本年度で解散し最後の寄贈となり、今後は同好会としてせっけん作りの指導等を行う予定です。



EM せっけんを手渡す佐々木会長（中央）と高橋事務局長（左）

日本郵便株式会社と包括連携協定を締結 災害時対応や高齢者等の見守りを強化

町は、2 月 25 日、日本郵便株式会社と包括的連携に関する協定を締結しました。協定の締結により、町と日本郵便株式会社は、災害発生時の対応や、高齢者・子どもの見守り活動、道路損傷等の情報提供を行い、住民サービスの向上などを図ります。高橋昌治金ケ崎郵便局長は「町民の安心・安全、くらしを守るために努めていきたい。災害時は町と連携し、町民に寄り添いたい」と話していました。



協定書を取り笑顔みせる高橋郵便局長（左）

「議会だより」全国入賞、県特選受賞報告 議会広報 16 年連続全国入賞

議会広報が町村議会広報全国コンクールで優良賞、県町村議会広報コンクールで 4 年連続で特選に輝きました。3 月 1 日に役場庁舎で行われた受賞報告では、阿部典子広報常任委員会委員長らが高橋由一町長に受賞報告しました。阿部同委員会委員長は「町民の皆さんに一歩でも近づけるように努力したのが評価された。これからもより良い広報を作っていく」と話していました。



表彰状を取り笑顔みせる町議会議員の皆さん